

登録日時	2009 1/27 21:29	登録番号	013
チーム名	途上国トイレ普及支援チーム		
行動主体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定非営利活動法人日本水フォーラム (連絡先: 浅井重範、TEL03-5212-1645、sanitation@waterforum.jp) ・ 日本トイレ研究所 ・ 社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン <p style="text-align: right;">ほか、関係省庁、関係団体、広範な民間企業</p>		
行動内容	<p>関係行政機関、地方自治体、広範囲な民間企業、NPOそして多くの国民が一丸となって、日本が様々な形で培ってきた衛生向上に関する法制度等の仕組み、人材、技術、経験を活用した、地域の習慣・文化、発展段階に合った適切な手法の導入とその維持・発展のための事業や活動の促進を目指すことで、途上国の衛生を向上させ、乳児死亡率の低下、水環境の改善、人間の尊厳の回復、就学率の向上、生産性の向上、ジェンダー平等の推進、感染症の罹患率低下など、途上国の貧困削減に貢献する。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 途上国における衛生向上のための事業や活動をさらに促進できるような日本としての施策のあり方の提言 ・ 国際社会への日本の経験の効果的な発信 ・ 途上国におけるトイレ普及などの衛生向上のための具体的な事業や活動の実施 ・ 複数の技術・手法を組み合わせた事業実施や分野横断的な事業実施のための連携 ・ 途上国における衛生向上の必要性と緊急性を共有し、国際貢献への参加を促すための啓発活動の実施 ・ 政府や公的機関はもちろん、企業のCSRや個人の資金も活用できるような、衛生向上のための事業・活動を支援する資金調達の仕組みの構築 		
課題分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生問題への取り組みは、開発政策上の優先順位が低い。 ・ 途上国の衛生の向上支援を行う場合、その地域の習慣・文化、発展段階に合った適切な技術・手法を様々な組み合わせながら導入し、段階的に発展させていかないと持続性がない。 ・ し尿の肥料化、浄化槽、下水道など、日本がその発展段階や国際貢献の歴史の中で様々な培ってきた技術、人材、法制度等の仕組み、経験を十分に国際的に周知・活用できていない。(国内の関係団体のネットワーク化、情報共有化はまだ始まったばかり) ・ 各団体の取り組みが個別・単発的に実施されることが少なくなく、一定地域の総合的な開発援助に十分つながっておらず、非効率である。 ・ コスト負担も含めた自立的な維持管理の仕組みの普及が十分ではない。(トイレの使用・維持管理のためのインセンティブが弱い) ・ 衛生問題を取り扱うこと自体がタブーとされる地域もあり、地域に合った形での衛生向上を成し遂げるには時間がかかる。 ・ 世界の衛生問題に関する国際貢献に対する日本国民の意識・参加意欲は、ともに決して低くはないが、実際の行動にほとんどつながっていない。 		
留意事項			